

第4回 福岡医療短期大学 特色GP口腔ケア実践教室

明日から役立つ食支援

平成20年 3月23日(日) 10:00~16:00

福岡医療短期大学 307教室・コミュニティホール

10:00~11:15 講演 座長:緒方 稔泰(福岡医療短期大学 教授)
“介護予防のための機能的口腔ケア”

講師 福岡リハビリテーション病院 障害者歯科部長 平塚 正雄

11:30~12:15 ランチョンセミナー①
“食べることを理解する”

講師 福岡医療短期大学准教授 堀部 晴美

12:15~13:00 ランチョンセミナー②
“食形態を考える”

講師 株)伊那食品工業

13:20~15:30 実技講習 “効果的な口腔ケアを体験しよう”
“機能的口腔ケアを理解する”

堀部 晴美 (福岡医療短期大学 准教授)

高橋美如、的野 操、泉 繭依、黒木まどか、木村友美、松延瑠理子

15:30~16:00 質疑応答

参加申し込み

裏面の申し込み用紙に記入し、必ずFAXでお申込みください。
締切 平成20年 3月 14日(金)

- ※ 講演・ランチョンセミナー・実技講習とも参加費・実習費は無料です。
- ※ 実技講習は定員 40名 になりしだい 締め切らせていただきます。
- ※ 『受講証』をお送りします。当日ご持参ください。

「口腔ケア実践教室」は文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム」
(特色GP) による補助事業の一つです。



福岡医療短期大学 特色GP研修会事務局
〒814-0193 福岡市早良区田村2丁目15-1 TEL:092-801-0411

FAX番号:092 - 801 - 4473

第4回 特色 GP 口腔ケア実践教室

“介護予防のための機能的口腔ケア - お口の廃用は予防できる-”

福岡リハビリテーション病院 障害者歯科部長 平塚 正雄

脳卒中などの疾患の治療過程や高齢者の日常生活において、過度の安静や不動の状態が続くと寝たきりの原因になる廃用症候群が生じます。この廃用症候群は「使わないでいると衰えてしまう現象」を表現していますが、具体的には関節や筋肉の拘縮、心肺機能低下や易疲労性、長期臥床による起立性低血圧、感覚・運動刺激の欠乏による廃用などがあります。脳卒中患者のリハビリテーションでは、このような廃用症候群の進行を防止するために、急性期から早期に座位姿勢を獲得して、早期離床へと進められていきます。一方、口腔領域においても口腔機能の活動性が低下すると廃用が生じます。具体的には、傾眠以上の意識障害がある患者さんで、枕が低すぎるような臥床姿勢を続けると頸椎は伸展位となるため、お口は常に開口し、口呼吸から口腔乾燥になり、口腔粘膜の萎縮や感覚異常を生じることになります。この状況が放置され、口腔内への感覚刺激が無ければ口腔領域の運動障害を引き起こすことになります。

口腔は大脳皮質の感覚野や運動野において、広い部分を占めていることが知られていますが、口腔の感覚を感知する感覚受容器は、咀嚼や発話時に口腔の運動を調節する感覚情報を入力するだけでなく、脳を覚醒させるための覚醒信号を入力する受容器としても重要な役割があります。

昨年、NHK 教育 TV 番組 福祉「なるほど介護・口から食べる工夫」の放送のなかで、もう一度口から食べられるようにするための取り組みが紹介されていました。それは、歯磨きによる口腔内の刺激を継続することによって、日常生活での覚醒レベルを上げ、経口摂取のための嚥下機能が回復した胃瘻患者さんの事例でした。ここで行われていた歯磨きは、「単なるお口の衛生管理」を目的としたものではなく、「口腔機能の向上や回復を目指した機能的口腔ケア」として実践されていたのです。

今回の講演では、このような口腔機能の向上を目的としたお口のリハビリテーションである機能的口腔ケアについて、当院歯科の取り組みを紹介し、解説したいと思います。